

第6学年 国語科学習指導案



- 1 単元名 筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを発表しよう
教材名 笑うから楽しい
時計の時間 心の時間

2 単元の目標

<知識及び技能>

- ・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(2) — (ア)

<思考力、判断力、表現力>

- ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。C— (ア)
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。C— (オ)

<主体的に学習に取り組む態度>

- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	①「読むこと」を通して、事実と意見との関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 ②「読むこと」を通して、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。	① 進んで筆者の主張や意図について捉え、今までの学習を生かして自分の考えをまとめ、伝えようとしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領国語〔第5学年及び第6学年〕の以下を受けて設定した。

- | |
|---|
| 1 [知識及び技能] (2) 情報の扱い方に関する事項 情報と情報との関係
ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
2 [思考力・判断力・表現力等] C 読むこと
ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 |
|---|

この単元で児童に身に付けさせたい力は、「原因と結果など情報と情報との関係について考えながら読む力」、「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する力」、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力」である。その力を付けるために、本単元では、筆者の主張や意図を捉えて時間との付き合い方について考えるという課題を立てた。叙述をもとに原因と結果の関係、事実と意見の関係について理解させながら筆者の主張や意図を捉えさせるようにする。そして筆者の考えに対する自分の意見を明らかにして書き表し、発表するという言語活動を設定した。他者に自分の考えを伝えるためにはどのようにしてまとめたら良いのか考える活動によって、理由を明らかにしたり、自分の経験を取り入れてまとめたりすることの良さに気づかせたい。

(2) 教材観

本単元では双括型で書かれた「笑うから楽しい」と「時計の時間と心の時間」の二つの教材を扱っている。両教材とも児童に身近な題材を扱っており、自分の生活に結びつけながら読み進めることができる。

単元の目標を達成するためにまず「笑うから楽しい」を学習し、その学習を活かして「時計の時間と心の時間」の学習が進められるようにする。

「時計の時間と心の時間」は、自分と他者との違いについて考えられる題材であり、児童は普段の学校生活において各々のペースやスピードの違いを実感しているため、それらのことを想起しながら読み進めていくと考えられる。構成は「初め」と「終わり」で筆者の考えが書かれ、「中」にはその考えに至った根拠として様々な実験を事例として挙げながら説明している。第2段落では「時計の時間」と「心の時間」それぞれの特性について書かれている。第3段落から第5段落には様々な事柄の影響を受けて時間の進み方が変わる事例、第6段落には人によって感覚が異なる事例が書かれており、それらのまとめが第7段落に書かれている。第3・4段落に書かれている事例は比較的想像し易いが、第5段落の事例については想像が難しい。それぞれの実験や事例について、経験をじっくりと話し合ったり体験をしたりして、しっかりと理解させながら筆者の考えや意図を捉えさせたい。

(3) 児童観

読む活動では、昨年度は説明文「言葉と事実」を学習した。中学年までの教材に比べ、問いを解明する過程が複雑かつ多面的になっていた。段落相互の関係から、的確に要旨を捉えることができない児童がまだ一部いた。そこで、今年度は思考ツールを活用し、視覚化することで読みを定着させていきたい。読書が大好きな児童が多く、読書タイムをととても楽しみにしている。また、長い物語や文庫本まで手に取る児童も多い。しかし、個人差が大きく、絵本や図鑑のようなもので読書タイムを過ごす児童もいる。

書く活動では、5年の1学期から10分程度で、100マス作文（100字～130字）を書いている。年間30回（ほぼ週1回）ほど書き、作文に対して苦手を感じる児童は少ない。書く量ばかりでなく、内容面も充実するよう引き続き指導していく。

話し合い活動では、小グループ（4人）では恥ずかしがらずに話し合うことができるが、全体交流となると、なかなか自発的に意見を言い合い、聞き合うことができない。自分の考えを

ノートにまとめることは、8割以上の児童ができているので、自信をもって自分の意見を発表できる聞き手を引き続き育てていきたい。

5 研究主題との関連

(1) 高学年分科会が考える深い学び

知識を相互に関連付けて、より深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることができる姿。

(2) 本單元における深い学びの姿

子供たちの時間に対する考え方は、圧倒的に「時計の時間」に偏る。筆者の考えを理解するだけでなく、子供たち自身の体験と本文を結び付けさせながら読むことで、改めて自分たちの過ごす時間について振り返り、これからの生活に生かしていこうとする態度をもつ。

(3) 深い学びに迫るための具体的な手立て

① 単元・授業構成の工夫

本單元と同じ流れで、「笑うから楽しい」の学習を「学習の見通し」の段階で行うことで、フィッシュボーン図の使い方に慣れたり、フィッシュボーン図にまとめるための観点作りを自分たちで行ったりすることができるようにする。単元を通して、一つのフィッシュボーン図に自分の経験や考えを付け加えていくことで、学習の積み重ねを狙い、筆者の主張や事例の読み取りを基に、自分の考えを視覚化し、考えの発表につなげていくことができるようにする。

② 思考ツールの活用

思考ツールの中のフィッシュボーン図を使うことで、事例と筆者の主張の関係を視覚的に押さえて、全体の文章構成を捉えることができるようにする。また、図の中に筆者の主張を受けて、自分の体験や知識とつなげて書き込むことで、「考えの形成」の段階で、これからの生活で生かす自分の考えをもちやすくする。

③ 対話の工夫

活動に合わせ、ペアやグループでの対話を意図的に取り入れる。「構造と内容の把握」の段階では、グループで対話をしながら、読み取った内容をフィッシュボーン図にまとめることで、主体的に学習に取り組みつつ、内容を正確に捉えられるようにする。「精査・解釈」の段階では、読み取った事例を基に、自身の経験や体験を友達と交流することで、自分の考えを広げていくことができるようにする。「考えの形成・共有」の段階では、自分の経験と結びつけながら、筆者の主張との共通点や相違点を相手に伝えるようにすることで、自分と他者とのものの見方や考え方の違いに気付き、深い学びにつながるようにする。

④ リフレクションの活用

毎時間の振り返りの観点を①学習内容を確認する振り返り、②学習内容を現在や過去の学習内容と関連付けたり、一般化したりする振り返り、③学習内容を自らとつなげ自己変容を自覚する振り返りとする。振り返りの観点を明確にし、次時にフィードバックすることで、学びを自覚させたり、深めたりすることができるようにする。

算数科では、短縮授業中クラス算数「つりあいのとれた図形」を行い、毎時間リフレクションを丁寧に行った。理解の浅い児童のリフレクションから、次時に全体にフィードバックして本時の授業を始めたり、教材を一部追加したりして、より学び合うことができた。

7 単元の指導計画と評価計画(全7時間扱い)

過程	時	学習活動 (課題/○主な学習活動/・子供の反応)	◇評価規準 ○指導上の留意点
学習の見直し	1	<p>○「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」 扉を読む。</p> <p>○日常生活で「時間」を意識する瞬間について、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土日好きなことをしていると、一日があっという間に過ぎる。 ・朝、起きる時、時計を気にする。 <p>○単元の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習課題】 筆者の主張や意図を捉え、自分の考えを發表しよう。</p> </div> <p>○学習計画を立てる。</p>	<p>○単元の見直しをもち、主体的に活動できるようにする。</p>
	2	<p>○前時を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>筆者の主張と事例をもとに、自分の経験と結び付けて考えよう。</p> </div> <p>○「笑うから楽しい」全文を音読する。</p> <p>○文章の構成を読み取り、筆者の主張と事例を思考ツールフィッシュボーン図に整理する。</p> <p>○筆者の挙げた事例に対する体と心の関係について、自分の経験を書き、グループ交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすと、気持ちがすっきりする。 ・涙を流すと、気持ちが落ち着く。 <p>○学習を振り返って、意見文を書く。</p>	<p>○フィッシュボーン図を使って文章構成や内容を可視化することで、正確に読み取ることができるようにする。</p> <p>○意見文を書く時に、思考ツールを活用し、自分の考えをもちやすくする。</p> <p>◇ア-① 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。</p>
構造と内容の把握	3	<p>○前時を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>主張と事例に気をつけて読もう。</p> </div> <p>○段落に分けて「時計の時間 心の時間」を読む。</p> <p>○思考ツールを活用し、文章構成を読み取る。</p> <p>○「時計の時間 心の時間」と「笑うから楽しい」との文章構成を比較する。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<p>○文章構成は、段落相互の関係を押さえさせる。</p> <p>○「笑うから楽しい」と文章構成が同じ双括型であることに気付かせる。</p> <p>◇イ-① 「読むこと」を通して、事実と意見との関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。</p>
精査・解釈	4	<p>○前時を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>筆者が挙げた事例を読み取り、自分の経験と結び付けて、考えよう。</p> </div>	<p>○フィッシュボーン図を使って文章構成や内容を可視化することで、正確に読み取ることができるようにする。</p>

	<p>○思考ツールを活用し、事例①②を読み取る。</p> <p>○事例で読み取ったことを基に、自分の経験をグループで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームに熱中していると時間が過ぎるのが早い、授業中は長く感じる。 ・宿題を朝やろうと思っても、学校でやる時間では終わらない。 <p>○全体交流をする。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<p>◇ア-① 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。</p> <p>◇イ-② 「読むこと」を通して、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。</p>
	<p>○前時を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>筆者が挙げた事例を読み取り、自分の経験と結び付けて、考えよう。</p> </div> <p>○思考ツールを使い、事例③④を読み取る。</p> <p>5 ○事例で読み取ったことを基に、自分の経験をグループで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生が横に来ると、長く感じる。 ・歩くスピードや会話のスピードが人によって違う。 ・身の回りの刺激を感じると長く感じる。 <p>○全体交流をする。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<p>○事例として挙げられている実験を追体験することで、内容理解を深める。</p> <p>◇ア-① 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。</p> <p>◇イ-② 「読むこと」を通して、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。</p>
<p>考えの形成・共有</p>	<p>○前時を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の考えを発表するための観点を決めよう。</p> </div> <p>○自分の考えをまとめる観点について話し合う。</p> <p>6 ○観点を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えに共感するところや疑問 ・自分の体験や身近な例 ・時間との付き合い方 ・生活に生かしたいこと <p>○本時の振り返りをする。</p>	<p>○フィッシュボーン図は、児童が思考をまとめやすいように、いくつかのパターンを用意し、選ばせるようにする。</p> <p>◇ウ-① 進んで筆者の主張や意図について捉え、今までの学習を生かして自分の考えをまとめ、伝えようとしている。</p>
	<p>○前時を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>時間に対する自分の考えをまとめ、交流しよう。</p> </div> <p>○フィッシュボーン図を活用し、自分の考えをまとめる。</p> <p>7 (本時) ○今までの学習を基に、時間に対する自分の考えをグループで交流する。</p>	<p>○作成した思考ツールを基に、自分の考えが発表できるようにする。</p> <p>◇ウ-① 進んで筆者の主張や意図について捉え、今までの</p>

	○単元の振り返りをする。	学習を生かして自分の考えをまとめ、伝えようとしている。
--	--------------	-----------------------------

8 本時の学習（7/7時目）

（1）ねらい

進んで筆者の主張や意図について捉え、今までの学習を生かして自分の考えをまとめ、伝えようとしている。

（2）展開

	学習活動 ・予想される反応	○指導上の留意 ◇評価（新学習指導要領基準）
つかむ 3分	1 前時を振り返り、本時のめあてを確認する。 時間に対する自分の考えをまとめ、交流しよう。	○本時のめあてを明確にする。
深める 35分	2 フィッシュボーン図を活用し、自分の考えをまとめる。 3 交流の観点を確認する。 4 今までの学習を基に、時間に対する自分の考えをグループで交流する。	○フィッシュボーン図を活用することで、思考を整理できるようにする。 ○交流する時は、自分の経験と結び付けて共通点や相違点を相手に伝えるようにする。 ○途中で中間評価を行うことで、交流が活性化するようにする。 ◇ウ-① 進んで筆者の主張や意図について捉え、今までの学習を生かして自分の考えをまとめ、伝えようとしている。
振り返る 7分	5 単元の振り返りをする。 ・相手の「心の時間」も大切にしたい。 ・みんなと交流をして、「時計の時間」と「心の時間」のバランスが大切だと思った。 ・グループ活動の時、「心の時間」にはずれがあるから、相手のことを気に掛けていきたい。	○ ①学習内容を確認する振り返り、②学習内容を現在や過去の学習内容と関連付けたり、一般化したりする振り返り、③学習内容を自らとつなげ自己変容を自覚する振り返りの3観点到った振り返りになるように促す。

(3) 板書計画

時計の時間 心の時間

一川 誠

めあて

時間に対する自分の考えをまとめ、交流しよう。

【交流のポイント】

- ・ 自分の経験と結び付けて感想を伝える。
- ・ 共通点
- ・ 相違点

【振り返り】

- ① ⑦くにん
- ② ⑦んけい
- ③ ⑦わった

9 成果と課題、講師の指導・講評

<成果と課題> ○成果 △課題 →改善点

		成果	課題
目指す深い学びの姿について		○自分たちの体験と筆者の挙げた事例を結び付けながら読むことで、自分たちの過ごす時間について考えることができた。	△知識が生活の中に生きる教材であるのに、深い学びに行き着いていない。 →8段落の読みをしっかりとる。これからの生活にどう生かすかを全員が考え、意見をもつ。
深い学びの姿に迫るための具体的な手立て	単元・授業構成の工夫	○「笑うから楽しい」の学習で、学び方を学び、筆者の主張や事例の読み取りに、自分の経験を付加し、考えを視覚化することはできていた。	△「時計の時間と心の時間」では、「時間」との付き合い方について考えるために読むということができていない。 →情報と情報の関係。「原因」と「結果」の観点で読むこと。
	思考ツールの活用	○思考ツールの中のフィッシュボーン図を使い、事例と筆者の主張の関係を視覚的に押さえる効果があった。全体の文章構成を整理することに有効な手段である。	△フィッシュボーン図は、自分の考えの理由や根拠を整理するのに有効だが、「原因」と「結果」の観点で読むのには、目的に合っていない。
	対話の工夫	○交流の観点（共感・相違・体験）など示していた。ペア交流は、たくさん発話していて良かった。	△交流ではなく、伝え合いになっていた。目的をもって交流する。 →何に向かって交流するのかの視点が足りない。 →交流を活発化するために、どうしてそう思ったの？や本当にそう思う？など、批判的な視点があると深い交流につながる。
	リフレクション	○3つの観点（①学習の確認、②関連付け、③自己変容）で毎時間ほとんどの児童が振り返りを書くことができた。 ○前時の振り返りを本時につなげて、授業に入ることができた。	

